

基本目標

福祉の充実のための 仕組みを作ろう！

基本方針 1

保健・医療と福祉、生涯学習と福祉の連携

現状と課題

健康づくり、疾病予防、治療、リハビリ、介護へと連なるサービスは、利用者にとって一貫した援助方針や助言に添うものであって、なおかつ利用者の意思に基づく選択によって提供されることが望まれます。

そのため、保健・医療・福祉の関係機関が連携し、各領域で適切なサービスが円滑に提供できる体制づくりが求められます。

また、地域福祉を推進する上で、住民が地域福祉活動に自発的で継続的に関わるためには、一人ひとりが活動を通じて、そこに生きがいや喜びを見いだせることが不可欠です。

そのため、地域福祉活動に関わるきっかけづくりとその活動を通じた自己実現の方法などを学習する場と機会の提供が求められます。

生きがいづくりやボランティア活動の啓発などにおいては、生涯学習と福祉の間に共通点も多く、連携を図る必要があります。

今後の展望 1 ネットワークによる見直しとサービスの向上

一貫した援助方針や助言に添ってサービスを提供するため、保健、医療、福祉のネットワークを一層強化するとともに、サービスの質の向上をめざします。

地域住民の役割

自分が受けようとする医療や福祉サービスの内容と意義をよく理解した上で、自らの選択で適切なサービスを受けます。

自分に関わる、医療や福祉サービスの履歴などの個人情報各機関の間で連絡されることを必要に応じて受諾します。

なんでも病院に行けば事足りるといった大病院偏重の考えを改め、一般的な病気やけがなどは、かかりつけ医によるなど、より良い選択をします。

市の役割

地域団体のほか、保健、医療、福祉の関係者やNPO、ボランティア団体などと懇談会を開催し、地域課題を共有し、ネットワークづくりを図ります。
必要な情報が関係機関で共有化できるよう配慮するとともに、個人情報の保護に努めます。

社会福祉協議会の役割

- 各関係機関の連絡会議などにおいて、分野間の情報交換と問題の共有化を図り、役割分担を確認します。

事業者などの役割

- 医療機関、福祉関係サービス事業者は、適切な福祉サービスの提供を図るために必要な情報を利用者に説明するとともに、利用者の同意のもと、個人情報の保護に留意しつつ、情報交換などの連携を図ります。

【地域福祉会議からの意見】

保健、医療、福祉関係機関が連携して、即時に総合的な対応ができる仕組みをつくる。

住民の保健、医療、福祉に関するデータを一元化した福祉カードを提示すれば、1カ所の窓口で必要なサービスが得られるように窓口の一本化を図る。

高齢者、障害者一人ひとりに（友人のような）サポーターやパートナーをつけ、この人が本人の相談の受け手となり、必要な行政手続等を代行する。

今後の展望2 生涯学習と福祉の連携

生涯学習の取り組みでは、ボランティア講座など、地域福祉活動に必要な知識、技術を習得する機会を設け、福祉行政の視点のみにとらわれることなく、文化や教養の向上が地域福祉に果たす役割の重要性を認識し、生涯学習と福祉の連携を図ります。

地域住民の役割

人のための役立つことが、自らの喜び（役割り）となることを実感し、福祉施設などの訪問やボランティア活動に参加します。

生涯学習の機会をとらえ、地域福祉の理念や援助技術を学びます。

専門的な知識や援助技術を身に付けた住民は、進んで地域の学習会などの講師役を引き受けます。

市の役割

福祉や生涯学習などにおいて類似の事業や懇談会などが実施されているものは、関係課で連携を図り、事業の統合化など見直しに努めます。

生涯学習で実施する講座や講演会についても、福祉と連携を図るよう努めます。

社会福祉協議会の役割

ボランティアの活動情報と人材情報を共有します。

ボランティア活動情報が身近な場所で得られるように努めます。

地域福祉活動計画での活動方針

地域ケア会議を開催するとともに、関係機関が開催する会議、研修会に積極的に参加し、地域での連携強化、問題を共有し協力体制をつくるよう努めます。

個々の事例に応じ、保健所、保健センター、市担当者、病院関係者、地区社協、民生・児童委員等と、同行訪問やケース検討会を開催します。

学校・地域・施設等のつながりをつくり、情報の共有化を図り、問題の解決に共に取り組むことも福祉学習を進めるうえで重要であることを啓発します。

基本方針 2

地域福祉の担い手づくり

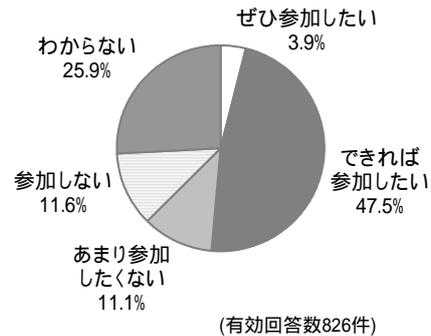
現状と課題

市民の半数以上が、ボランティア活動に関する研修や講習会が開催されれば、参加したいと思っています。

地域福祉活動を推進していくためには、現在、行っている活動の活性化だけでなく、新たな担い手づくりが大切です。

今後、地域福祉活動に携わりたい人に対するきっかけづくりや地域福祉活動を牽引するリーダーを育成することが求められます。

Q. ボランティア講習会に参加しますか



今後の展望 1 市民活動・NPO活動・地域福祉リーダーの発掘・育成

市民活動やNPO活動などの地域福祉の担い手となるリーダーを育成するとともに、地域に埋もれた人材の発掘を推進します。

地域住民の役割

活動に必要な知識・技術を持つ人材を把握し、活動への参加を呼びかけます。

地域単位で少年期、青年期、壮年期、老年期の各年代毎にリーダーを育てます。

市の役割

各年代のリーダー育成活動の必要性を啓発します。

地域福祉活動参加への機会の提供、情報整備、環境整備を行います。

社会福祉協議会の役割

地域福祉活動勉強会の開催によるリーダーの発掘と育成を行います。

企業や事業所と連携した市民活動・地域福祉活動を推進します。

事業者などの役割

- 事業者は、ボランティア休暇制度を設定し利用しやすい環境をつくれます。

【地域福祉会議からの意見】

地域の活動を継続的に引っ張っていく人がいない。

【アンケートからの意見】

福祉活動（行事）をする場合、する人、受ける人ともに高齢者のため、次の役員となり手がおらずこの先が心配。若手を育てなくてはいけないのだが、ボランティア会員に入らないので困っている。

今後の展望2 民生・児童委員活動への理解と支援協力

民生・児童委員の活動が周知されていない面があり、その活動に対する理解を普及啓発するとともに、地域福祉活動の重要な担い手として、活動の支援を図ります。

地域住民の役割

民生・児童委員は、住民の一員としての立場から主体的に訪問活動などを行い、要援護者の把握や支援に努めます。

民生・児童委員と町内組織は、地域課題の把握や解決のために連携を図ります。

住民は、民生・児童委員の要援護者に対する支援などの活動を理解します。

市の役割

民生・児童委員が活動しやすいように支援します。

民生・児童委員の活動をPRし、住民への周知に努めます。

社会福祉協議会の役割

福祉委員会の活動と連携し、民生・児童委員の活動を支援します。

介護支援専門員に民生・児童委員の活動への理解を促し、双方の連携を支援します。

事業者などの役割

- 福祉事業者は、民生・児童委員の活動を理解するとともに、民生・児童委員が利用者と地域を結ぶ接点としての役割を担うことを認識します。

【地域福祉会議からの意見】

民生・児童委員が担当区域の問題把握に精通するよう、個別訪問等活動を主体的に展開する。

地域のひとり暮らしの高齢者などに民生・児童委員を知ってもらう。

自分の地域の民生・児童委員が誰かわからないので、広報などで担当地区別名簿の周知を図る。

今後の展望3 ボランティア活動の活性化、人材の育成と活用

地域福祉活動の担い手となるボランティア組織の活性化を図るため、ボランティアリーダーの育成や、活動への参加を多くの地域住民に呼びかけます。

地域住民の役割

困っている人を見たら、声かけをしたり、必要な手助けをしたりする日常的なちょっとしたボランティア活動に参加します。

地域のボランティア活動を推進し、回覧版や町内会活動の拠点となる場所に活動内容を提示するなど、周知に努めます。

市の役割

ボランティア活動推進機関で相互の連携を図り、活動支援に努めます。

地域活動における事故への対処として、市が市民を対象に加入している、ふれあい保険の対象となる事故や保障内容などを周知します。

社会福祉協議会の役割

広域でのボランティア活動の窓口を把握し、地域住民や企業などへ情報を提供します。

ボランティア活動に必要な情報を提供します。

市民活動センターと協働し、活動情報紙やガイドブックの作成に努めます。

ボランティアコーディネート機能を充実します。

継続的に活動するボランティアには、交流や意見交換のため、ボランティア連絡協議会の加入を勧めるとともに、ボランティア活動保険の説明や加入受付をします。

事業者などの役割

事業者は、従業員がボランティア活動に積極的に取り組めるよう支援します。

事業者は、従業員に向けて退職前セミナーなど、ライフプラン（ボランティア活動を含む）講座などを行います。

【地域福祉会議からの意見】

地域福祉活動に携わりたいと思っても、どういうふうに関わっていったらよいかわからない。

自分の町で福祉活動に携われる人(例:ボランティアをやりたい人)がどこにいるかわからない。

退職後の地域活動、退職間際の人がいる事業所にパンフレットを配布して、地域活動への参加を呼びかける。

ボランティアグループに所属しない人が誘導したり、車いす等押した時の事故発生の責任のあり方が問題である。

ボランティア統一デーを設定する。

【アンケートからの意見】

ボランティアを求めている人は、多くいるのではないかと思う。

ボランティアを求める側と行動する側との連絡が、寄りつきやすくしていく必要があるのではないかと思う。

グループを通してただ楽しむだけでなく、一歩進んで何かの時には助け合える仲間になれたらいいと思う。

ボランティアの参加募集をもっと広く呼びかけて、簡単に申し込める身近なものにして欲しい。

ボランティアネットの活動範囲を広げてほしい。若い世代(20~30代)が集まって交流できる行事の企画が必要である。

無償でのボランティアは、人間関係のトラブルが起きやすいので、ボランティア精神の理解を深めるために、行政のアドバイスが必要ではないか考える。

地域福祉活動計画での活動方針

各地区社協で、地域福祉活動勉強会、リーダー研修会等を開催し、地域福祉活動者を育成します。町内福祉委員会単位でも学習会を開催します。

地区社協会長連絡会で、新任役員研修、先進地視察研修などを行います。

ボランティアセンターで、講座等を中心にボランティアの育成・研修を行います。

先進的な取り組み事例

地区社会福祉協議会の勉強会

各地区社協では、地域福祉活動の担い手となる人を対象に、毎年2～3回、地域の特性や活動の進み具合に応じて、テーマを決めて勉強会を開催しています。最近では、実際の活動方法や問題点を町内別のグループで話し合ったり、作業をするなど、「気づきから行動へ」の流れを大切にしたプログラムとなっています。



基本方針 3

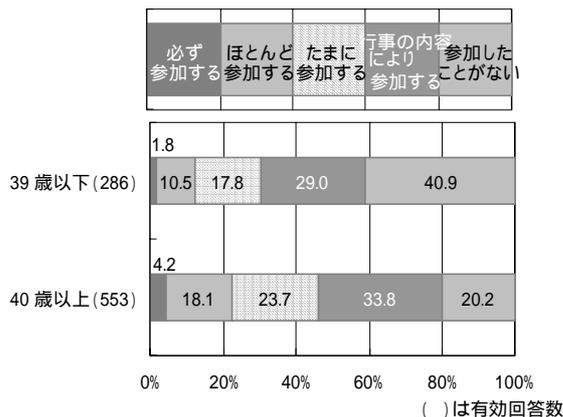
中高年パワーの活用

現状と課題

40歳以上の中高年の人は39歳以下の人に比べ地域活動によく参加しています。かつては、どの地域にも存在した「カミナリオヤジ」や「世話やきおばさん」、「ご意見番のご隠居」など、地域内の監督係、調整係といった役割りを担う人材が、この中高年世代の中から現れることが期待されています。

中年層の人で特に男性については仕事などの理由から地域活動になかなか参加できないという人が多く、そうした人たちをいかに参加できるようにするか、が課題です。また、定年後の人や高齢者の地域活動への参加促進など、中高年パワーの活用が求められます。

Q. 地域の行事や活動への参加は



今後の展望

中高年の地域活動参加の仕組みづくり

中高年世代の住民が地域活動に参加できる仕組みの構築をめざします。また、高齢者が培ってきた経験を地域活動に活かすための仕組みづくりを進めます。

地域住民の役割

壮年期の男性など子育て後の世代も地域で活躍できるように、地域の行事や仕事の役割分担など見直します。

男性が気軽に参加しやすい雰囲気や環境づくりに努めます。

高齢者が今まで身につけた知識や経験、技術が活動に活かせるような環境をつくります。

永年活動を行っている人は、今まで培った知識や経験を次の世代に伝え、その活動が地域で根付くように努めます。

高齢者パワーを活用して、地域での子育て支援活動を推進します。

市の役割

- 高齢者の生きがい対策や就労支援のためのシルバー人材センターの活用を推進します。

社会福祉協議会の役割

- 退職前に地域との関わりを作るために、地域活動、ボランティア活動への参加の機会をつくり、情報提供に努めます。

事業者などの役割

事業者は、町内会、ボランティア活動推進機関、市民活動団体、シルバー人材センターなどと連携し、情報を交換します。

事業者は、従業員へボランティア活動の紹介を含むライフプラン研修を積極的に実施します。

【地域福祉会議からの意見】

高齢者の中で生活のために仕事をしたい人は、少なくないが、その仕事が少ない。

寝たきりの人など、身体機能の低下がみられても、自尊心や生きる意欲は強くあり、“いるだけでボランティア（役割りを担う）”の例もある。

地域福祉活動計画での活動方針

- 福祉委員会の活動の中では、高齢者の力が様々な活動で発揮されています。特に子どもとの関わりは、お互いに良い効果をもたらしており、これらの活動を推進します。

先進的な取組み事例

花ノ木町内会のおやじの会

花ノ木町内会では、定年退職後の男性パワーを町内活動に活かそうと、回覧版で参加を呼びかけ、「おやじの会」が発足しました。約20名のメンバーは、毎月1回定例会などで、昔の地域の姿を語り合い、若い世代に残していくための活動のほか、ひとり暮らしの高齢者宅への支援も要請に応じて行っています。今後は災害時の要援護者への支援も検討中です。



基本方針 4

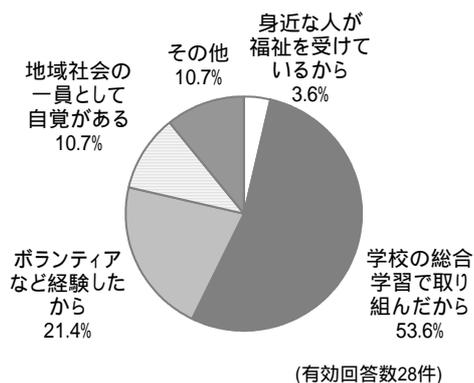
福祉学習による人づくり

現状と課題

中高生の約4割が地域の助け合いや福祉などに関心があります。その主なきっかけとして、学校の総合学習での取り組みやボランティア活動の経験から関心を持っています。

しかし、今後到来する超高齢社会を見越して、学校での福祉学習のみに限らず、介護方法などの実習を取り入れた、より実践的な学習の場を地域や福祉現場の中に設けてゆくことが必要とされます。

Q. 地域福祉に関心を持つ理由は



13歳～17歳の市民を対象としたアンケートから

今後の展望

福祉学習から活動へつなげる仕組みづくり

幼児期や学齢期の子どもたちに、福祉について学ぶ機会を学校や地域で設け、福祉に対する心の情操に努めるとともに、将来の地域福祉の担い手を育てます。

地域住民の役割

地域で高齢者や障害のある人たちとの日ごろの関わりを通して、高齢者や障害のある人への理解を深めます。

年代を問わず、様々な福祉学習の機会に積極的に参加します。

学校の取り組みに協力し、子どもたちの福祉学習を手助けします。

市の役割

各学校で福祉学習が積極的に取組まれるよう働きかけます。

障害児の統合^注保育を実施します。

福祉学習に関する教員研修の場を設けます。

学校行事や課外活動の場で高齢者や障害のある人との交流の機会をより多く設けるように努めます。

社会福祉協議会の役割

ボランティア、障害のある人、教師など福祉学習に関わりのある人を対象に福祉学習サポーターを育成します。

あらゆる世代を対象に、福祉講演会、映画会など身近な場所での学習機会を提供します。

児童・生徒の自発的な取組みを支援します。

夏休み福祉教室、青少年ボランティア体験学習などの事業を充実し、より多くの児童生徒の参加を促がします。

事業者などの役割

- ボランティアなどの体験学習を積極的に受け入れます。

【地域福祉会議からの意見】

初任者研修等、教員研修の中に福祉教育についての内容を盛り込むよう、教育委員会等に働きかける。

学校からの依頼を待つのではなく、社協、障害者の側から学校に呼びかける。

【アンケートからの意見】

大人だけでなく子どもの頃から、家庭や学校で当たり前で学んでいけるような社会になれば良いと思う。

子どもの頃からボランティアの精神を育てていく事が大切だと思う。

地域福祉活動計画での活動方針

福祉学習の推進を目的として、小中学校を対象に、福祉ボランティア学習活動助成事業を行います。

夏休み期間中に、中学・高校生を対象にボランティア体験事業を行います。

ボランティア、障害者、学校教諭等福祉学習に関わっている人、関心のある人を対象に、「福祉学習サポーター講座」を開催します。

その他に、各地区社協等では福祉講演会・映画会、ボランティア教室、介護教室など幅広い年齢層を対象に様々な学習の機会を設けます。

注「統合保育」

障害のある児童と障害のない児童と一緒に保育することを言います。

先進的な取組み事例

安祥中学校のチャレンジタイム

安祥中学校では、週1回、午後の半日に、チャレンジタイム（生徒による自主学習の時間）を学年ごとに設けています。この時間の過ごし方は、生徒が自ら計画し、主体的に活動します。保育園や施設でボランティア活動をする生徒、趣味のスポーツや楽器演奏に取り組む生徒など、様々な姿が見られ、地域の父兄や福祉施設にも受け入れられています。



基本方針 5

地域における子育ての支援

現状と課題

地域での結びつきの弱まりや核家族化などの背景から、子育て家庭の育児の不安感・負担感は増大しています。ときとして、その心のひずみが児童虐待となって現れ、大きな社会問題となっています。

子育ての不安を解消するために、子育て中の親子と地域の人が普段、気軽にふれあえる場と機会をつくりだすことが求められています。また、「子どもは地域の宝」という認識で、子育てを地域ぐるみで支えていく必要があります。

今後の展望 1 家庭・地域・学校の役割と連携

子どもを地域の一員として認めたいと、自分の子、他人の子の区別なく地域ぐるみで声かけ、見守りなどを行います。

家庭、地域、学校が連携して、子育て中の家庭や子どもの健全育成を支援します。

地域住民の役割

非行や犯罪、いじめの多発などに対処するため、地域の子どもは地域で守り、育てるための「地域のおじさん、おばさん運動」を進めます。

子ども会行事の運営を通して、地域の児童と高齢者などとの交流に努めます。

市の役割

育児の援助をする人と援助をしてもらいたい人たちが会員となり、互いに助け合う「ファミリーサポートセンター事業」を拡充します。

子育て中の親子が気軽に相談し、交流ができる児童館的な機能を持つ「つどいの広場」や「にこにこランド」を設置します。

地域と連携した学校教育を推進します。

社会福祉協議会の役割

福祉委員会が中心となった地域住民による子育て支援活動の側面的な支援を行います。

地域の中での世代間交流と障害のある人との交流の場づくりを支援します。

【地域福祉会議からの意見】

地域住民による寺子屋教育とふれあいで、地域で子どもを育てる。

【アンケートからの意見】

大人が積極的に子どもに声を掛け、事のよし悪しを教えるべきときではないだろうか。

現在の子どもに親の姿をしっかり見せ、親も子に見られて恥ずかしくない人間であるべきだと思う。

今後の展望2 世代間交流の推進

児童から高齢者まで、あらゆる世代の住民が、共に地域で暮らしていくために、世代間の交流を推進します。

地域住民の役割

高齢者パワーを活用して、地域での子育て支援活動を推進します。

子ども会行事の運営を通して、地域の児童や高齢者などとの交流に努めます。

子ども会、PTAと老人クラブなど世代を超えた交流を図ります。

老人クラブや子ども会などで対象毎に実施している行事を共同開催するなどの見直しを進め、交流を促進します。

市の役割

保育園や幼稚園において、高齢者との伝承遊びなどを通じた世代間交流事業を図ります。

中学生の行う体験学習の一つとして、保育園や幼稚園における保育の体験を通じて、交流を図ります。

【地域福祉会議からの意見】

少子化に伴い高齢者の役割は大きくなるが、社会に向けてボランティア精神が低い。

【アンケートからの意見】

いろいろな年代の人といろいろな話をする機会ができるといい。

元気な老人に外にもっと出てもらい、子ども達に近づいて欲しい。

保育園や小学校では、おじいちゃんやおばあちゃんと交流があったが、高校生になると全くないので、学校でのイベントに参加してもらったらどうか。(13～17歳)

私達の年齢位の子がとても悪い事をしているが、そうでない子もたくさんいることを知ってもらう事が、歩み寄れる一歩のように思う。(13～17歳)

地域福祉活動計画での活動方針

市の助成対象とならない30人未満の子育てサークルへの活動助成を行います。

福祉委員会等で、地域のふれあい交流活動の中で、子どもと他世代との自然なふれあいの場づくりがされており、これらの活動を側面的に支援します。

先進的な取組み事例

城ヶ入町の「ばわふるきっず」

城ヶ入町福祉委員会では、話し合いの中で小学生の子を持つ若い母親達が子ども達の夏休み中の過ごし方で困っていることがわかりました。

そこで、子ども会役員、老人クラブ有志、町内ボランティアで、町内の老人憩いの家を、夏休みなど長期休暇の平日の午前中利用し、小学生の自主的な遊びを見守る活動を始めました。ここでは宿題のほか、スポーツ、工作、手芸などのびのびと過ごすことができ、子ども達にとっても、高齢者にとってもお互いに有意義な時間となりました。

